

現代福祉学部

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】(参考)

現代福祉学部の教育理念「ウェルビーイング (Well-being) =健康で幸福な暮らしと社会」のもと、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の3つの領域を柱とした教育カリキュラムが生まれ、その改善に向けた検証と努力がなされていることは評価できる。第2言語として日本手話を設置し、国家資格取得に向けた対策講座を開催するなど、学部がもつ3つの領域のいずれかで職業人として活躍する学生を意識したカリキュラムとなっている点も大いに評価できる。

成績評価についても、基本的に基準の統一が図られ、基礎演習に関しては評価の偏りをなくするために懇談会の開催や申し合わせ事項の作成が行われるなど、厳格な成績評価に向けた努力がなされている。

さらに、大学院と連携した研究会を開催し、研究交流の場とすると同時に、実習先での当事者対応など、繊細な問題に直面するであろう現代福祉学部の授業運営に関する情報交換の場としている点も評価できる。

全体として学部の専門性に即した教育努力がなされており、今後も継続されることを期待したい。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

評価を受けた点について今後も継続的に取り組み、学部が有する専門性に即した教育努力を続けるとともに、変わりゆく社会問題にも対応できるスペシャリストの育成に向けて、新しい国家資格への対応、語学や実習教育の充実など、更なる努力を重ねていきたい。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

現代福祉学部は、教育カリキュラムの改変により、学部が有する専門性に即した教育努力を続けている。今後、カリキュラムの教育効果の測定および評価方法への開発に向けた一層の取り組みが求められる。また、2019年度に学部全体で「カリキュラム検討委員会」を発足させ、執行部・教務委員を中心に議論を進め、2020年夏までに議論をまとめ、新カリキュラムを2021年度入学生から適用する予定となっており、更なる教育の充実化に向けた取り組みをしている。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

本学部は両学科ともに、学生の能力育成の観点から、「社会福祉」「コミュニティマネジメント」「臨床心理」などの領域で働く、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとしている。コミュニティをベースとしつつ、社会福祉学・心理学などの本学部の根幹となる学問の体系性に鑑み、基礎から応用へと学習の順次性を確保したカリキュラム編成がなされている。これらの知識・技能を基盤として実習やインターンシップによる現場教育を充実させ、机上の学問から実践力へと展開するカリキュラム編成がなされている。

実習・インターンシップ科目としては、福祉コミュニティ学科の地域系実習科目として「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」を2年次から選択できるように配置し、3～4年次においては社会福祉系実習である「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」と臨床心理系実習である「臨床心理実習」を配置し、学生の学びの多様性の保障に努めている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

現代福祉学部が掲げる専門性の高い職業人を育成し続けるため、言語コミュニケーション科目の更なる充実のための第二言語の追加のほか、国家資格である社会福祉士の制度改革に伴う対応、今日的な社会課題に対応するコミュニティマネジメント分野等の科目改変を進めることとし、2019年度に学部全体で「カリキュラム検討委員会」を発足させ、執行部・教務委員を中心に議論を進めている。2020年夏までに議論をまとめ、新カリキュラムを2021年度入学生から適用する予定である。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| | |
|---|---|
| ・特になし | |
| ②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>カリキュラムの順次性・体系性を維持しつつ、学生の能力育成の観点から学部の教育理念に基づいてカリキュラムの改編を進めてきた。2018年度入学生からは、第二言語を追加した語学教育とコミュニティマネジメント系の実習の改変を伴う実習教育の充実を核とした、新カリキュラムを展開している。</p> <p>『履修の手引き』と学部ホームページにおいて各学年での標準的な履修方法を学生に提示し、年度始めには教務委員による履修相談を通じて、学生に合わせたカリキュラム体系を組み立てている。</p> <p>カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーにおいてはディプロマ・ポリシーごとの科目を学年ごとに列挙し、4年間を通して体系的に学べるよう配慮している。</p> | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、Ⅱ.各学年での履修方法） ・カリキュラムマップおよびカリキュラムツリー ・http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18curriculum.pdf ・http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18kaikou.pdf ・http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18curriculum_tree.pdf ・http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18curriculum_map.pdf ・http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18curriculum.pdf ・http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18kaikou.pdf ・http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18curriculum_tree.pdf ・http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18curriculum_map.pdf | |
| ③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>専門領域を越えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置している。それらは、学部共通科目、視野形成科目、言語コミュニケーション科目、情報・調査系科目に細分化されている。</p> <p>1年次からの専門教育偏重をさけるために、専門基礎科目と専門基幹科目（一部を除く）以外の専門教育科目は、2年次からの配当としている。</p> | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、Ⅱ.カリキュラム） | |
| ④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> S A B |
| <p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>1年生を対象とした少人数の演習形式で行う基礎演習を開設し、大学における学習の視座、方法や技術に関する初年次教育を実施している。</p> <p>基礎演習の内容および指導方法や進め方の向上を目的に、春学期と秋学期に基礎演習担当者懇談会を実施して授業の進め方に大きな差が生じないように心がけている。</p> <p>また、基礎演習において、学生のモチベーション及びリーダーシップ能力の向上、思考力やプレゼンテーション能力の育成を目標にグループワークを行い、成果発表の場として「基礎ゼミコンペ」を行っている。2018年度からは全クラスが参加する仕組みを整え、1年生全員参加のもと、特徴ある内容とレベルの高いプレゼンテーションが行われた。</p> <p>さらに担当教員に教育開発支援機構FD推進センターが作成した「学習ハンドブック」を配布し、基礎演習での指導に活用した。</p> | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

高校生に向けては、本学の教育理念や内容を伝える方法を改善し、それに共感する高校生が入学できる入試制度を整えていく。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

新しい国家資格である公認心理師について高校生にもわかる映像資料を制作し、学部ホームページに公開した。また、高校生に学部の教育理念と内容を伝え、まちづくりチャレンジ入試について説明するために、教員自ら高校に向かう機会を増加させた。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて
- ・教育開発支援機構 FD 推進センターが作成した「学習ハンドブック」
- ・臨床心理学科による公認心理師紹介動画 リンクを記載
- ・高校からのまちづくりに関する模擬講義の招聘文書

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

S A B

※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

本学部においては、海外留学や海外企業および国際機関への就職を目指す学生を対象とした高度な英語教育プログラムとして、ネイティブスピーカーによる「インテンシヴ・イングリッシュ」を開講している。

さらに2018年度入学生からは言語コミュニケーション科目に関する大幅な見直しを行い、英語を必修とし、第二言語として中国語と日本手話を配置した。さらに英語能力の裏付けとなる「TOEIC」のクラスやIELTS試験対策を中心とした「インテンシヴ・イングリッシュ」のクラスを1年次から設置した。また2つの学科にまたがって、英語を教授言語としている「Community Based Inclusive Development」と「Disability and Development in Asia」を開講し多くの学生が受講している。

学生の国際性を涵養するために、海外の先進的な社会福祉・コミュニティマネジメント・臨床心理の実践を学ぶ「海外研修制度」（2年生30名）も設けている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

本学部佐野ゼミナールとスポーツ健康学部の吉田ゼミナールが共同し、本学の「環境・サステイナビリティ教育活動を実践するプラン」の採択を受けてカンボジアで環境活動を行ったところ、第2回SDGsクリエイティブアワードJICA特別賞を受けることができた。このような国際的なゼミ活動の促進も引き続き行っていきたい。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第2回SDGsクリエイティブアワードについて（JICA特別賞をご参照ください）

<https://www.sdgs.world/2nd-award-winner>

- ・表彰を受けた映像

<https://youtu.be/iyHxvnDx71Y>

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S A B

※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

「社会福祉」「コミュニティマネジメント」「臨床心理」の各現場において専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務と課題に関する「フィールドスタディ入門」などの講義を実施し、職業選択に関わる広い視野の形成を促す教育を行っている。

さらに、キャリア教育の一環として、大学における学びと職業選択の連関性や就職活動の実際について学習する「キャリアデザイン論」を開設し、より実践的な教育を行っている。

1年生向けの基礎演習においてもキャリアセンターから講師を招き、担当教員とともに将来の職業に向けての学びについての講義を提供することで、学生が自ら考えるきっかけづくりを行なっている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）
- ・現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム 1.カリキュラム）

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | |
|--|---|
| <p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に学年ごとの履修ガイダンスを実施し、科目履修に関するきめ細かな指導を行っている。 ・履修相談会を開催し、ガイダンスでの内容を踏まえ、各専門領域の専任教職員による個別の履修相談を実施している。 ・さらに、2019年度よりラーニングサポーター制度を実施し、科目履修、授業課題への取り組み方、学内施設の利用などについて、先輩学生による留学生や新入生、後輩学生へのアドバイスをを行っている。 | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>ラーニングサポーター制度を導入し、春学期の始めに先輩学生による履修相談を行うとともに、その後の活用を推進するため、予め稼働する日時を決めて、基礎演習で1年生に周知した。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス資料（ガイダンス日程・各学年のガイダンス配布資料・履修相談会相談用紙） ・ラーニングサポーターに関する案内（基礎演習にて配布） | |
| ②学生の学習指導を適切に行っていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生への学習指導については、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則として20名以下の少人数教育を行うことで、きめ細かな学習指導を行っている。 ・個々の教員はオフィスアワーを設定し個別指導を行っている。 | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図） ・現代福祉学部履修の手引き（各学科 IIカリキュラム 2.演習・実習科目） ・現代福祉学部履修の手引き（専任教員紹介） ・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて | |
| ③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスにおいて各回の授業内容を明示するとともに、【授業時間外の学習】の項目において、学生が行うべき学習内容を示し、学生の学習時間（予習・復習）の確保を促している。</p> | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス | |
| ④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3領域における実習・インターンシップ科目は、座学で得た知識・技術・価値を実際の現場との連携によって実践的に修得し、問題解決能力や実践力を身につけることができる授業形態としている。それらの学びは、年度末に実習報告書としてまとめている。 ・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習・スクールソーシャルワーク実習において、実習施設の方を招いて報告会を実施した。 ・より良い授業を目指して、授業相互参観（春学期と秋学期に実施し、授業形式に関する情報交換）を実施している。 ・講義科目でグループワーク等のアクティブラーニングを導入する授業を把握し、あらかじめ座席をグループワークに適した形にした教室を優先的に使ってもらえるようにしている。 | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の「課題解決型フィールドワーク for SDGs」に水野雅男先生が採択され、大学キャンパスでの避難生活のデザインを目的に、教室での座学のみならず、屋外空間も用いたアクティブラーニングを取り入れ、授業の新しい形を試行することができた。この取り組みは本学の「自由を生き抜く実践知大賞」にもノミネートされ、「人々への共感賞」を受賞した。 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度「自由を生き抜く実践知大賞」表彰式の報告 | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | |
|--|---|
| http://phronesis.hosei.ac.jp/article/article-20191224162343 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度各領域実習報告書 ・2019年度実習報告会資料 ・2019年度授業相互参観報告書 | |
| ⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習・専門演習・語学については、少人数教育を行うために1授業あたりの学生数を制限し、クラス編成を行っている。 ・実習教育において、少人数での演習指導が行えるようにクラス編成を行っている。 | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部履修の手引き | |
| 1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。 | |
| ①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員の成績評価法・評価基準については、シラバスの記載に基づいて適切に運用されている。また、一部の授業を除いて、成績評価の基準の統一を図っている。 | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（現代福祉学部）成績評価割合のガイドラインについて | |
| ②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組み概要を記入。</p> <p>成績評価については、特に複数クラスを設定している基礎演習において、クラスごとの偏りがないように、春学期と秋学期に基礎演習担当教員懇談会において打ち合わせを実施し、申し合わせ事項を作成した。</p> | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（現代福祉学部）成績評価割合のガイドラインについて ・「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」出欠と成績評価に関する申し合わせ事項 | |
| ③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| <p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部に就職委員会を設置し、専門ゼミを通して実態把握を行い、教授会で報告し実態を把握している。 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度学生の就職・進学状況一覧 | |
| 1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。 | |
| ①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| <p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績分布、進級状況などについては適切に把握し、教授会において情報共有がなされている。 ・成績分布や単位修得状況を確認し、GPAが0.5以下の学生については、執行部・教務委員による個別面談等により原因の把握や改善策の検討を行っている。 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部 進級・卒業審査資料 | |
| ②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | |
|--|---|
| <p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>福祉コミュニティ学科は、国家試験である社会福祉士と精神保健福祉士の対策講座を実施している。また、両国家資格合格者人数の把握によって学習成果を測定している。</p> | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験対策講座の資料 ・社会福祉士・精神保健福祉士合格者データ | |
| <p>③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p> | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関して、入学時と1年終了時に TOEIC テストを実施することにより、個々人の能力の同定に寄与するとともに、担当教員の効果的な授業運営に活かし、また1年次および次年度のクラス編成にも役立てている。 ・2018年度入学生からの「インテンシヴ・イングリッシュ」については、春と秋に受験する TOEFL のスコアを比較し、その学習効果を科目担当者と語学教育運営委員会とで検証を行い、より適切な授業運用や指導を行うよう努めている。また、このスコアは1年生および次年度のクラス編成にも用いる事とした。 ・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習・スクールソーシャルワーク実習において実習報告会を実施するとともに実習報告書を作成している。臨床心理実習においても実習報告書を作成している。 ・「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップ I・II」は、年度末に調査・実習報告書を取りまとめており、その指導を通じて習熟度を把握している。 | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アチーブメントテスト結果 ・2019年度各領域実習報告書 ・2019年度入学生以降の春（4月）および年度末（1月）の TOEIC テスト結果 | |
| <p>④学習成果を可視化していますか。</p> | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学習成果としての卒業論文について、そのテーマの一覧を作成し、教員間で情報共有がなされている。 | |
| <p>【2019年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度現代福祉学部卒業生 卒業論文テーマ一覧 | |
| <p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p> | |
| <p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。</p> | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業改善アンケート」や学部が独自に実施している「カリキュラム改善アンケート」の結果に基づき、カリキュラム検討委員会、教授会懇談会等において改善点の検討を行ない、カリキュラム編成に反映させている。 ・学生への「モニタリング調査」を毎年実施し、教育成果を教務委員会と教授会において検証している。 | |
| <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度学生へのモニタリング調査結果 | |
| <p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p> | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※利用方法を記入。

- ・教授会において授業改善アンケート結果の情報について共有化を図っている。
- ・これまでのアンケート結果や学生へのモニタリング結果を受けて、2018年度入学生から、より実践的な英語の能力を測定するためTOEICテストを導入した。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度および2019年度授業改善アンケート結果

(2) 長所・特色

| 内容 | 点検・評価項目 |
|------|---------|
| 特になし | |

(3) 問題点

| 内容 | 点検・評価項目 |
|------|---------|
| 特になし | |

【この基準の大学評価】

現代福祉学部では、コミュニティをベースとしつつ、4年間一貫した積み上げ教育を行い、社会福祉学・心理学などの学問の体系的に鑑み、基礎から応用へと学習の順次性を確保したカリキュラム編成がなされていることが窺われる。これらの知識・技能を基盤として実習やインターンシップによる現場教育を充実させ、机上の学問から実践力へと展開するカリキュラム編成がなされている。今後、国家資格である社会福祉士の制度改革に伴う対応のために、新カリキュラム編成の準備を行っており、専門性の高い職業人を育成するためのさらなる強化が期待される。

カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーにおいては、ディプロマ・ポリシーごとの科目を学年ごとに列挙し、4年間を通して体系的に学べるよう配慮するなど、授業科目の順次性と体系的性を可視化・明示化する優れた取り組みである。初年次教育に関して、1年生を対象とした少人数の演習形式で行う「基礎演習」は少人数クラス制により、「担当者懇談会」や「基礎ゼミコンペ」を併用するなど、きめ細かい指導が行われている。キャリア教育については、「キャリアデザイン論」を配置していることも適切である。

英語を必修とし、第二言語として中国語と日本手話の配置、英語強化プログラム、スタディ・アブロード・プログラムなど、数々の科目は学生の国際性を涵養するための教育内容であると評価できる。

学生の履修指導は、学年ごとの履修ガイダンスや履修相談会を実施し、科目履修に関するきめ細かな指導が適切に行われている。さらに、ラーニングサポーター制度を実施し、先輩学生による留学生や新入生、後輩学生へのアドバイスを行っている。学生への学習指導については、基礎演習・専門演習などは、原則として20名以下の少人数教育を行うことで、きめ細かな学習指導を行っており適切である。実習・インターンシップ科目は実習報告書としてまとめ、ソーシャルワーク実習などは報告会を実施するなど、大きな教育的効果が得られる取り組みである。授業がシラバスに沿って行われているかの検証は、教員による授業相互参観などによって行われており、適切である。

学生による授業アンケート結果の組織的利用として、カリキュラム検討委員会、教授会懇談会等において改善点の検討が行われており、改善としてシラバスにおいて「学生による授業アンケートからの気づき」を記入するなどの取り組みが行われている。

2 教員・教員組織

【2020年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・学部内では、非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催のWell-being研究会を毎年2-3回開催し、研究交流を図りながら教授法についてもディスカッションしFD活動を推進している。2019年度は3回実施した。

【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・Well-being 研究会

■第1回

日時 2019年6月28日(土) 15:30~17:00
 会場 法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎3階 S306教室
 講師 野田岳仁准教授「地域ツーリズムからみた地元コミュニティの幸福観」

■第2回(現代福祉学部20周年記念イベントと共同開催)

日時 2019年10月20日(日) 13:00~14:30
 場所 法政大学多摩キャンパス 福祉301教室
 テーマ 『Well-Beingを考える～現福での学びと今～』
 高石麗理湖さん、現代福祉学部第1期卒業生、大学院修了生
 現職：厚生労働省社会・援護局
 小宮君一さん、現代福祉学部第5期卒業生
 現職：厚木市役所 観光振興課
 高小田若菜さん、現代福祉学部第13期卒業生
 現職：社会福祉法人中央共同募金会
 佐々木友理加さん、現代福祉学部13期生卒業生
 現職：伊勢原教育センター
 水沼真由美さん、現代福祉学部第14期卒業生
 現職：社会福祉法人十日町福祉会
 田口雄一さん、現代福祉学部第1期卒業生(司会)

■第3回

日時 2020年2月13日(木)、11:30~13:00
 場所 法政大学多摩キャンパス 福祉301教室
 講師 中村律子教授「ネパール震災後のコミュニティ再創造について」
 布川日佐史教授「日独比較：雇用政策と公的扶助の交錯」

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2019年度 Well-Being 研究会開催の案内
- ・現代福祉学部20周年記念シンポジウムの案内

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

- ・毎年行われる Well-being 研究会によって、学部内の教員の研究成果や社会活動について発表し、資質向上を図っている。
- ・年に一度、本学部で発行している『現代福祉研究』において、教員業績の発表を義務付けることにより、研究業績の向上を教員間で共有している。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

本学全体の取り組み(「課題解決型フィールドワーク for SDGs」や「環境・サステナビリティ教育活動を実践するプラン」)への応募を教授会等で促した。その結果、2019年度は、途上国の環境保全活動、キャンパスを用いた防災活動を行う教員が学内外で表彰されるなど、社会貢献の活動が活発化した。

本学の懸賞論文への呼び掛けを強化した結果、応募件数と入賞件数がともに増加し、優秀賞1件、入選2件、佳作3件が表彰された。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2019年度「自由を生き抜く実践知大賞」表彰式の報告
<http://phronesis.hosei.ac.jp/article/article-20191224162343>
- ・第2回SDGsクリエイティブアワードについて(JICA特別賞をご参照ください)
<https://www.sdgs.world/2nd-award-winner>
- ・表彰を受けた映像 <https://youtu.be/iyHxvnDx71Y>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・第42回法政大学懸賞論文入賞一覧
http://www.hosei.ac.jp/documents/NEWS/campuslife/2019/2019_42.pdf
- ・2019年度 Well-Being 研究会開催の案内
- ・『現代福祉研究』

(2) 長所・特色

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 問題点

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

【この基準の大学評価】

現代福祉学部のFD活動については、非常勤講師も招いた大学院教授会と合同開催のウェルビーイング研究会が実施されており、優れた取り組みであると評価できる。研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策は、『現代福祉研究』に教員業績の発表を義務付けることにより、研究業績の向上を教員間で共有している。

本学の「課題解決型フィールドワーク for SDGs」や「環境・サステナビリティ教育活動を実践するプラン」に応募し、途上国の環境保全活動、キャンパスを用いた防災活動を行う教員が学内外で表彰されるなど、社会貢献活動も活発である。これらの活動に対する評価・検証についても期待したい。

なお、シートで今年度、自己点検・評価の対象となった「教育課程・学習成果」「教員・教員組織」のいずれの基準についても、「(2) 長所・特色」「(3) 問題点」について、記述がない。部内では自明の事柄であったとしても、今後は可能な限り記入いただくことが望ましい。

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

| No | 評価基準 | 理念・目的 | | | | | |
|----------------|---|---|----------------|--|------|---|----|
| 1 | 中期目標 | 現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。 | | | | | |
| | 年度目標 | ①教育理念の周知をはかるため、今年度も学部パンフレットを改訂する。さらに学生にも参画してもらいながら、手書きのリーフレットも更新していく。 ②教育理念を実現している活動を学部ホームページに随時掲載する。 ③学部パンフレットや映像資料および学部ホームページを積極的に活用して、学部内外に教育理念の周知を図る。 | | | | | |
| | 達成指標 | ①学部パンフレットを改訂し、新たにリーフレットを作成する。 ②学部ホームページの掲載内容およびホームページの月間閲覧者数のカウントを検証する。 ③オープンキャンパスや高校説明会等における、学部パンフレットとリーフレットの配布と広報活動を行う。 | | | | | |
| | 年度末報告 | <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">教授会執行部による点検・評価</th> </tr> <tr> <th>自己評価</th> <td>A</td> </tr> <tr> <th>理由</th> <td>①学部パンフレットに新たなデータを盛り込んだ改訂版を作成した。 ②学部ホームページの4月～12月のページビュー数は30,770あり、昨年度の31,513とほぼ同様の閲覧数であった。 ③多摩および市ヶ谷におけるオープンキャンパス（現代福祉学部の説明会・模擬授業で843名参加）、および高校説明会において、学部紹介のパンフレット教員紹介パンフレットや手作りリーフレットを、説明とともに配布し学部の特徴を積極的に伝えた。さらに、2020年度入試よりはじまった「まちづくりチャレンジ特別入試」を紹介するに際して、本学部の特徴を紹介した映像資料を作成し、DVDの配布やウェブで公開することで更なる学部の特徴を伝えた。</td> </tr> </thead> </table> | 教授会執行部による点検・評価 | | 自己評価 | A | 理由 |
| 教授会執行部による点検・評価 | | | | | | | |
| 自己評価 | A | | | | | | |
| 理由 | ①学部パンフレットに新たなデータを盛り込んだ改訂版を作成した。 ②学部ホームページの4月～12月のページビュー数は30,770あり、昨年度の31,513とほぼ同様の閲覧数であった。 ③多摩および市ヶ谷におけるオープンキャンパス（現代福祉学部の説明会・模擬授業で843名参加）、および高校説明会において、学部紹介のパンフレット教員紹介パンフレットや手作りリーフレットを、説明とともに配布し学部の特徴を積極的に伝えた。さらに、2020年度入試よりはじまった「まちづくりチャレンジ特別入試」を紹介するに際して、本学部の特徴を紹介した映像資料を作成し、DVDの配布やウェブで公開することで更なる学部の特徴を伝えた。 | | | | | | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| | | |
|----------|--|--|
| | 改善策 | 2020年度には、学部の大きなカリキュラム変更が行われるため、2021年度入学生に向けた新たなパンフレット等を作成していく。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 学部の大幅なカリキュラム変更に伴い、2020年度入試より始まった「まちづくりチャレンジ特別入試」を紹介するに際して、本学部の特徴を紹介した映像資料を作成し、DVDの配布やウェブで公開することで更なる学部の特徴を伝えたことは評価される。 |
| | 改善のための提言 | カリキュラムが大幅に変更されることに伴い、入学生や受験生にとり良く理解できるような内容を備え、また配慮されていることが反映されていくことが望まれる。 |
| No | 評価基準 | 内部質保証 |
| 2 | 中期目標 | 継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを充実させる。 |
| | 年度目標 | ①質保証委員会と学部執行部によるPDCAサイクルを運用する。 ②非常勤講師も交えて、FD改善に向けた研究会の内容について検討する。 |
| | 達成指標 | ①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を定期的に行う。 ②Well-being研究会を年3回開催し、そのうち1回はFD改善のための意見交換を行う。 |
| | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | S |
| | 理由 | ①質保証委員会は4月に年度の目標と達成指標案を確認し、2月には年度目標の達成状況を点検した。 ②Well-being研究会を3回(6月・10月・2月)開催した。6月の研究会では、兼任講師との意見交換会の時間も設定し授業改善に向けた意見交換を行った。10月は、学部の20周年記念・ホームカミングデーの中に位置づけ、卒業生や現役生を交えて、本学部の理念であるWell-beingについての意見交換を行った。 |
| | 改善策 | 今後もWell-being研究会を定期的で開催し、質保証の維持と向上をめざす。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| 所見 | 年に3回教員および兼任講師との意見交換、更に卒業生および現役生も交えたwell-beingに関する意見交換や意識向上を目指したことは評価できる。 | |
| 改善のための提言 | 今後共にこうした取組みが継続的に実施されていくことが望まれる。 | |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
| 3 | 中期目標 | 2018年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。 |
| | 年度目標 | 2018年度カリキュラムについて、学生の評価結果を調査し改善策を協議する。特に、言語コミュニケーション科目と2019年から新たに開講された「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップI・II」の検証に重点を置く。 |
| | 達成指標 | ①学生へのモニタリング調査を秋学期に実施する。 ②モニタリング調査により明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。 |
| | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | ①新入生と4年生に対する学生へのモニタリング調査を11月に実施し、カリキュラム等に関する課題と要望を聴取した。 ②新たなカリキュラム改変に向けて、カリキュラム検討委員会および語学教育運営委員会において、学生の意見も反映しながら新カリキュラム検討を行っている。 |
| | 改善策 | 今後も同様の形式にて継続的に開催する。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| 所見 | 新たなカリキュラム改変に向けて、カリキュラム検討会および語学教育運営委員会において、学生の意見も反映しながら取り組んだことも評価できる。 | |
| 改善のための提言 | 改変が学生の要望にも反映しているか今後はモニタリングが必要である。 | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| No | 評価基準 | の提言 | |
|----|-------|--|--|
| 4 | 中期目標 | 教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。 | |
| | 年度目標 | ①3つの専門領域の横断的な教育を進めるための課外活動や講義形態のあり方について検討を行う。 ②今年度も、ゼミでの活動や地域系実習における、海外での展開を検討し、安全な仕組みを構築する。 | |
| | 達成指標 | ①3つの専門領域を横断する新たな教育プログラムについて教務委員会ならびに実習調整委員会において協議し、その方向性を提示する。また、専門領域を超えたゼミどうしで合同ゼミを開催する。 ②海外での実習や研修についての検証を行う。 | |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | | 自己評価 | A |
| | | 理由 | ①基礎演習においては、毎年、演習の内容や指導方法等について基礎演習担当で懇談会を行いながら進めている。今年度も学部全体の横断的プログラムである「基礎ゼミコンペ」を行った。 ②3領域についての学びを深める海外研修については、例年通りに海外研修報告書を作成し、報告会は新年度のガイダンス期間に開催する。コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱにおいては、ベトナムのフエ・ダナンに行き、現地大学生と一緒にコミュニティの課題に接し、解決手法を議論したり合同でイベントを実施した。さらに海外展開を行っているゼミでは、タイ・バンコク近郊の国際機関や日本政府関係機関、大学や民間団体を訪問し、発表や意見交換を行った。 |
| | | 改善策 | 専門教育や専門ゼミにおいても、横断的教育の検討が必要である。 |
| | | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | | 所見 | 3領域の横断的教育を、国際的なことを多く含めて実施していることは評価できる。 |
| | | 改善のための提言 | 専門教育の中にも反映されるような仕組みや方策を模索する必要がある。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 | |
| 5 | 中期目標 | 高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。 | |
| | 年度目標 | ①各実習および学部独自のプログラムである海外研修や国内研修についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学習成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。 ③研究活動の学習成果として、積極的に懸賞論文へ投稿するように促す。 | |
| | 達成指標 | ①3領域の実習および海外研修・国内研修の報告書と報告会について検証する。 ②専門領域ごとあるいは複数のゼミ合同での卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③学内外の懸賞論文に学部内で5本投稿する。 | |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | | 自己評価 | S |
| | | 理由 | ①ソーシャルワーク実習、およびコミュニティマネジメント・インターンシップの報告書を作成し、実習受け入れ先の担当者を招いたりするなどして、実習先との情報共有を行うための報告会を開催した。臨床心理実習においても報告書を作成した。 ②卒業論文報告会は、他学年や大学院生の参加のもと10のゼミで実施した。 ③学内外への懸賞論文の応募は8本であり、入選は6本であった。その中の1本は優秀賞に選ばれた。 |
| | | 改善策 | 実習関係の検証を続けていくとともに、学内外への懸賞論文等の投稿数を高めていく。 |
| | | 質保証委員会による点検・評価 | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | | | | |
|----|-------|--|--|--|
| | | 所見 | 実習を伴う学部教育が懸賞論文等の外部評価に反映されたことは評価に値する。 | |
| | | 改善のための提言 | 今後共これまでのように着実な実践と、取り組みを継続していくように望みたい。 | |
| No | | 評価基準 | 学生の受け入れ | |
| 6 | | 中期目標 | 学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。 | |
| | | 年度目標 | 留学生受け入れの動向や指定校入試、グローバル体験入試などの特別入試について、学部の教育理念に照らして検討する。特に2019年度から実施する「まちづくりチャレンジ特別入試（自己推薦）」についても検討する。 | |
| | | 達成指標 | ①教務委員会において、各入試の動向について検討協議し、教授会にて決定する。 ②教務委員会や教授会懇談会を定期的に開催して入試方法の多様化を協議するとともに、入試改善の動向を検証する。 | |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | | |
| | | 自己評価 | A | |
| | | 理由 | 教務委員会を定期的に開催し、多様な入試について検討し教授会に諮っている。今年度は特に、新たに実施した「まちづくりチャレンジ特別入試（自己推薦）」の状況を教授会でも報告し、今後の入試改革へ向けた情報共有を行った。 | |
| | | 改善策 | 新たな入試で合格した学生の動向も見ながら、今後の入試のあり方を検討する。 | |
| | | 質保証委員会による点検・評価 | | |
| 所見 | | 多岐に渡る入学方法を、模索することは評価できる。 | | |
| | | 改善のための提言 | これらの入試方法で入学後のフォローアップを行い、優秀な人材が確保できているか等の効果の検証が望まれる。 | |
| No | | 評価基準 | 教員・教員組織 | |
| 7 | | 中期目標 | 将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。 | |
| | | 年度目標 | 本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。 | |
| | | 達成指標 | ①情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。 ②教務委員会と教授会懇談会を定期的に開催し、上記の結果と学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像をとりまとめる。 | |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | | |
| | | 自己評価 | B | |
| | | 理由 | 学部内の3領域において、それぞれの領域では課題と強みについて整理し、それを踏まえた教員組織の検討も行っている。また学部創立記念20周年のシンポジウムも通して、学部共通の理念についての再確認も行うことができた。しかし学部全体についての具体的な将来像についての踏み込んだ議論は、不十分である。 | |
| | | 改善策 | 学部全体の教員組織についての学部懇談会を実施し、検討を進める。 | |
| | | 質保証委員会による点検・評価 | | |
| 所見 | | 学部全体の理念が教員全体で共有できるように踏み込んだ話し合いができるように努めていくことが望まれる。 | | |
| | | 改善のための提言 | well-being 研究会や様々な場を設けて意識的に教員組織間の議論を深めていく必要がある。 | |
| No | | 評価基準 | 学生支援 | |
| 8 | | 中期目標 | 個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。 | |
| | | 年度目標 | ①学生支援のなかでも、とりわけ低GPA学生に対する支援の仕組みを整える。 ②春に実施している、各専門教員による履修相談を充実させる。 ③先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を創設し、年間を通して身近な相談の機会を充実させる。 | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| | | |
|---|--|--|
| | 達成指標 | ①学部基準による低 GPA (0.5) の学生について、春学期には当該学生が所属する専門ゼミの教員に対して情報を提供し、秋学期には専門ゼミの教員や執行部による面談を試みる。 ②履修相談とラーニングサポーター制度についての相談者件数と相談内容の検討を行う。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | S |
| | 理由 | ①低 GPA 対象者に対しては、ゼミ担当者や執行部が電話やメール、面談などを通して支援を行っている。 ②履修相談は、今年度は4月1日と4日に開催し、相談者数合計は47名であった。相談内容についても教務委員会で共有し、次年度の履修相談に役立てている。また今年度より、学部の先輩学生が後輩や留学生の相談に応じるラーニング・サポーター制度を導入し、履修登録時や実習決定の時期など、学生からの相談の多い時期を中心に気軽に相談できる場を設けている。 |
| | 改善策 | 低 GPA 対象者や履修相談など、今後も学生の学習相談などに対して細やかに対応していく。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 低 GPA 対象者や履修相談などきめ細かに学生支援を行っていることは評価できる |
| | 改善のための提言 | 学生支援に向けて常に、多角的にニーズ把握を継続していくことが望まれる。 |
| No | 評価基準 | 社会連携・社会貢献 |
| 9 | 中期目標 | 学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を促す。 |
| | 年度目標 | ①学生や教員、また演習などにおける社会貢献や社会連帯との活動について把握する。 ②それらの結果を学部内で発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。 |
| | 達成指標 | ①学生と教員、演習へのアンケートの実施。 ②そのアンケートをもとに、個々の活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開する。 ③オープンキャンパス等においても、その結果を公表していく。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | ヒアリングアンケート調査を実施し、その結果をオープンキャンパスでも公表している。 |
| | 改善策 | 今後も、各教員やゼミナール等における社会貢献の活動について、学部全体で共有できる仕組みを整えていく。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 学部全体として社会貢献・社会連携していくことは評価される。 |
| 改善のための提言 | 「見える化」「公開」「公表」など様々に実践されたが、今後も共有化していく仕組みを検討していくことが望まれる。 | |
| 【重点目標】 | | |
| ①教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 | | |
| ・言語コミュニケーション科目の更なる改善と2019年から新たに開講された「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」を検証する。 | | |
| ②学生の受け入れ | | |
| ・2019年度から実施する「まちづくりチャレンジ特別入試（自己推薦）」についての動向を検討する。 | | |
| 【年度目標達成状況総括】 | | |
| ①-1 言語コミュニケーション科目については、独語・仏語も含めた諸語のカリキュラム検討を語学教育運営委員会とカリキュラム検討委員会において行っている。これらは次年度のカリキュラム改革に反映していく。 | | |
| ①-2 「コミュニティマネジメント・リサーチ」の受講者は8名であり、リサーチに必要な問の設定・調査活動・分析そして議論を行い、その成果を報告書としてまとめた。リサーチにおいては、地域および、そこで活動する人々に深く入り込み、関係性を築きながら実施した。「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」は、早くからフィールドに出たいという需要があり、受講生20名のうち15名が2年生であった。受講生の問題関心により2～6名によるグループ編成を行 | | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

い、事前学習と受け入れ先とのプログラム調整、現場実習報告書作成に取り組み、実習を通してグループワークも体験することができた。受講生のうち6名は海外実習を希望し、ベトナムでの実習を行った。

②「まちづくりチャレンジ特別入試（自己推薦）」について、志願者数は22名おり、第一次・第二次選考の結果12名を合格とした。高校時代から主体的な活動や学びを行っている優秀な学生が応募しており、新たな入試制度を導入した成果が見られた。

【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

現代福祉学部の2019年度目標の達成状況に関して、教育課程・学習成果（教育方法）は、3領域をいかした総合的な学びを確保する取り組みとして、演習の内容や指導方法等について基礎演習担当者の懇談会や「基礎ゼミコンペ」を行うなどにより、一定の成果を上げていることは評価できる。専門教育や専門ゼミにおいても横断的教育の検討が望まれる。教育課程・学習成果は、学習成果を積極的に公表していくために、報告書、報告会のほかに、懸賞論文への投稿を促すことは、本学の研究教育の仕組みにリンクさせる取り組みとして評価される。今後は、さらに論文数のエントリーを増やすことを期待したい。

教員・教員組織は、学部全体の具体的な将来像の議論が課題にあげられるように、今後、踏み込んだ話し合いができるように努めていくことが望まれる。

学生支援のなかでも、低GPA学生に対する支援を専門ゼミの教員が担当することにある程度の効果はあるだろうが、担当者間の対応の差異などが生じかねないことから、一定の質的な保障ができる方法を組織的に検討することが求められる。

IV 2020年度中期目標・年度目標

| No | 評価基準 | 理念・目的 |
|----|------|---|
| 1 | 中期目標 | 現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対する周知を深める。 |
| | 年度目標 | ①現代福祉学部の目的や教育理念についての発信を強化し、広報戦略の見直しを行う。 ②学部の理念や目的に即したカリキュラム改正を実現し、周知方策を検討する。 ③教職員や学生の取り組みやメッセージをオンラインメディアで頻度よく発信できるようにする。 |
| | 達成指標 | ①学部の広報委員会の人数を増やし、その所掌範囲の見直しを行う。 ②2021年度のカリキュラム改正を反映した効果的な広報媒体を検討し、作成する。 ③学部のオンラインメディア（HP、SNS等）を活用し、HP等の月間閲覧者数のカウントを検証する。 ④オープンキャンパスや高校説明会等における、学部パンフレットとリーフレットの配布と広報活動を行う。 |
| No | 評価基準 | 内部質保証 |
| 2 | 中期目標 | 継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを充実させる。 |
| | 年度目標 | ①質保証委員会と学部執行部によるPDCAサイクルを運用する。 ②非常勤講師も交えて、FD改善に向けた研究会の内容について検討する。 ③上記について新型コロナ感染拡大に対応した方法を検討する。 |
| | 達成指標 | ①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を定期的に行う。 ②Well-being研究会を年3回開催し、そのうち1回はFD改善のための意見交換を行う。 ③Well-being研究会のオンライン開催を検討する。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
| 3 | 中期目標 | 2018年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。 |
| | 年度目標 | 2018年度カリキュラムについて、学生の評価結果を調査し改善策を協議するとともに、2021年度の新カリキュラムに活かす。特に、2020年度の新型コロナ感染拡大に対応したオンライン授業の内容検証に重点を置く。 |
| | 達成指標 | ①学生へのモニタリング調査を秋学期に実施する。 |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | | |
|----|------|---|
| | | ②モニタリング調査により明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。 ③カリキュラム・マップやツリーを適切に改正する。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| 4 | 中期目標 | 教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。 |
| | 年度目標 | ①オンラインによる講義形態について指針を示すとともに、その検証を行う。 ②新型コロナ感染拡大に対応したゼミでの活動、実習、インターンシップの展開について指針を示すとともに、その検証を行う。 |
| | 達成指標 | ①オンラインによる授業形態について執行部を中心に検討し、専任非常勤教員に向けて指針を出す。 ②実習、インターンシップの扱いについて担当教員と執行部が中心になって検討し、指針を出す。 ③上記の①、②の成果について教務委員会ならびに実習調整委員会において協議し、検証を行う。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 |
| 5 | 中期目標 | 高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。 |
| | 年度目標 | ①各実習についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学習成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。 ③研究活動の学習成果として、積極的に学内外のコンペ、懸賞論文等に挑戦することを促す。 |
| | 達成指標 | ①実習の報告書と報告会について検証する。 ②卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③懸賞論文に学部内で5本投稿する。 ④学内外のコンペ等への参加状況を把握し、検証する。 ⑤優秀な成績を収めた論文やコンペ企画などを学部内で表彰する。 |
| No | 評価基準 | 学生の受け入れ |
| 6 | 中期目標 | 学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。 |
| | 年度目標 | 留学生受け入れの動向や指定校入試、グローバル体験入試などの特別入試について、学部の教育理念に照らして検討する。特に2019年度から始まった「まちづくりチャレンジ特別入試（自己推薦）」について検討する。 |
| | 達成指標 | ①教務委員会において、各入試の動向について検討協議し、教授会にて決定する。 ②「まちづくりチャレンジ入試運営委員会」を設置し、入学者の状況把握や入試広報についての検討を進める。 |
| No | 評価基準 | 教員・教員組織 |
| 7 | 中期目標 | 将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。 |
| | 年度目標 | 本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。 |
| | 達成指標 | ①情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。 ②教務委員会で協議の上、教授会懇談会を開催し、上記の結果と学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像をとりまとめる。 |
| No | 評価基準 | 学生支援 |
| 8 | 中期目標 | 個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。 |
| | 年度目標 | ①学生支援のなかでも、とりわけ低GPA学生に対する支援の仕組みを整える。 ②オンライン授業化に対応した履修相談の仕組みを整える。 ③先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を活用し、年間を通して身近 |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| | | |
|---|------|--|
| | | な相談の機会を充実させる。 |
| | 達成指標 | ①学部基準による低 GPA (0.5 以下) の学生について、春学期には当該学生が所属する専門ゼミの教員に対して情報を提供し、秋学期には専門ゼミの教員や執行部による面談を試みる。 ②履修相談とラーニングサポーター制度についての相談件数と相談内容の検討を行う。 |
| No | 評価基準 | 社会連携・社会貢献 |
| 9 | 中期目標 | 学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通じて今後の展開を促す。 |
| | 年度目標 | ①学生や教員、また演習などにおける社会貢献や社会連帯との活動について把握する。 ②それらの結果を学部内で発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。 |
| | 達成指標 | ①ゼミや実習担当教員へのアンケートの実施。 ②そのアンケートをもとに、個々の活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開する。 ③その結果を学部広報を通じて発信していく。 |
| <p>【重点目標】 理念・目的</p> <p>①現代福祉学部の目的や教育理念についての発信を強化し、広報戦略の見直しを行う。 ②学部の理念や目的に即したカリキュラム改正を実現し、周知方策を検討する。 ③教職員や学生の取り組みやメッセージをオンラインメディアで頻度よく発信できるようにする。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 学部の広報委員会の人数を増やし、執行部と連携しながら新たなカリキュラムスタートとともに始める広報戦略について検討する。とりわけ、オンラインメディア (HP, SNS 等) の活用を含む新しい広報活動を検討する。</p> | | |

【2020 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

| |
|--|
| <p>現代福祉学部の 2020 年度中期目標・年度目標の設定については、概ね適切に設定されている。</p> <p>学生の受け入れについては、「まちづくりチャレンジ特別入試 (自己推薦)」によって入学した学生の学習成果や社会活動等の具体的な成果に期待したい。また、学習支援については、低 GPA 学生に対する支援に対する取り組みは専門ゼミの教員が対応することになっているが、学生の事情は様々であり、ゼミ教員では限界があると思われることから、適切に対応できるような検討が望まれる。</p> <p>重点目標については、新型コロナ禍による対面式授業が実施できない状況を考えれば、教育方法や教育成果について、オンライン等のメディアで効率的に発信できるように、その質的な向上を期待したい。</p> |
|--|

【大学評価総評】

| |
|---|
| <p>現代福祉学部の教育理念「ウェルビーイング (Well-being) のもと、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の 3 つの領域を柱とした教育カリキュラムが生まれ、その改善に向けた検証と努力がなされていることは評価できる。グローバル化に対応した、新カリキュラムにおける教育内容・教育方法・学習効果の改革を着実にかつ計画的に進めていることは高く評価できる。今後は、新カリキュラムの教育効果の測定および評価方法への開発に向けた取り組みが求められる。学生の受け入れは、</p> <p>学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させるために、2019 年度から始めた「まちづくりチャレンジ特別入試 (自己推薦)」など学生の受け入れに積極的な姿勢は評価される。また、新型コロナ感染の防止のために、学習支援システムやオンライン授業の実施にあたっているが、学生に不利益にならないように教育や学生支援を行うことが、今後の大きな課題となる。なお、学内外への貴学部の特徴等の PR という点もあるので、評価対象となった基準の「長所・特色」、「問題点」については、今後は可能な限り記入いただくことが望まれる。</p> <p>全体として学部の専門性に即した教育努力がなされており、今後も継続されることを期待したい。</p> |
|---|

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。